

Life as an evacuee after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident is a cause of
polycythemia: The Fukushima Health Management Survey
福島第一原発事故後の避難生活は多血症の原因となる～福島県県民健康調査～

坂井晃

福島県立医科大学医学部放射線生命科学講座
福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター
福島県立医科大学

著者

坂井晃^{1,11,12}、大平哲也^{2,11,12}、細矢光亮^{3,11,12}、大津留晶^{4,11,12}、佐藤博亮^{5,11,12}、川崎幸彦^{5,11,12}、鈴木均^{6,11,12}、高橋敦史^{7,11,12}、小橋元⁸、小笹晃太郎⁹、安村誠司^{10,11,12}、山下俊一^{11,12,13}、神谷研二^{11,12,14}、阿部正文^{11,12}、福島県民健康管理調査グループ

1 福島県立医科大学医学部放射線生命科学講座、2 福島県立医科大学医学部疫学講座、3 福島県立医科大学医学部小児科学講座、4 福島県立医科大学医学部放射線健康管理学講座、5 福島県立医科大学医学部腎臓高血圧・糖尿病内分泌代謝内科学講座、6 福島県立医科大学医学部循環器・血液内科学講座、7 福島県立医科大学医学部消化器・リウマチ膠原病内科学講座、8 放射線医学総合研究所・重粒子医科学センター 医療情報室、9 放射線影響研究所疫学部、10 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、11 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター、12 福島県立医科大学、13 長崎大学原爆後障害研究所、14 広島大学原爆放射線医科学研究所分子発がん制御研究分野

要約

東日本大震災による原発事故で避難対象となった13市町村の住民で、震災後2011年から2012年の健診を受けた40～90歳の住民の中で、震災前2008年～2010年の末梢血液検査データのある住民を対象とした。過去に血液疾患の治療のある方や腎透析中の方は除外した10,718人を対象とし、内訳は避難者7,446人(年齢中央値66.3歳)、非避難者3,272人(年齢中央値69.8歳)であった。

赤血球数(RBC)、ヘモグロビン(Hb)、ヘマトクリット(Ht)それぞれにおいて、男女とも避難住民において有意に増加しており、これらは年齢、性別、喫煙や飲酒、肥満の有無、さらに震災前のHb値によって調整しても有意に増加していた。さらに多血症の基準を満たす住民は、喫煙や肥満の有無で調整後も避難住民において有意に増加していた。

この研究は避難生活が多血症の原因となることを示したものであり、今後の福島県民の健康管理に重要な情報である。

掲載情報

「BMC Public Health」 (2014, 14:1318 doi:10.1186/1471-2458-14-1318)

Sakai A, Ohira T, Hosoya M, Ohtsuru A, Satoh H, Kawasaki Y, Suzuki H, Takahashi A, Kobashi G, Ozasa K, Yasumura S, Yamashita S, Kamiya K, Abe M; Fukushima Health Management Survey Group

BMC Public Health. 2014 Dec 23; 14(1):1318.